

令和7年度 第4回摂津市民図書館等協議会 要点録

日時:令和8年3月23日(月)

10時00分～11時30分

場所:市民図書館 3 階大会議室

出席委員: 7名

欠席委員: 2名

事務局: 4名

図書館 : 2名

- 案件 1. 令和7年度第3四半期モニタリング評価結果報告
2. 令和8年度事業計画(案)
3. その他

(1) 令和7年度第3四半期モニタリング評価結果報告

(事務局) — 令和7年度第3四半期モニタリング評価結果について説明 —

(委員) 蔵書管理の項目がいつもどういった基準で点数をつければよいかわからない。基準などはあるか。

(事務局) 基準はあるが、基本的には、委員として感じたままを点数にしてもらいたい。次のモニタリング評価の際に送付させていただく。

(委員) 全ての採点項目において、基準は全部あるのか。

(事務局) 作成している。

(委員) 図書館のお仕事体験について、学校からの依頼に対応する形で開催するのではなく、希望者を募って図書館主催で実施してはどうか。学校からの職業体験にて参加する子どもは、本に興味がないが、事業の一環として参加している子どももいる可能性がある。

本のが好きで、熱意のある子どもが参加できる形を取ってもらいたい。

その他にも、書架整理やこどもスペースの見守りなどの、通称「ちょこっとボランティア」のようなものも募集してもらおう等はどうか。

(図書館) 他市の図書館でもそういったボランティアが活躍している。参考にし、生涯学習課と相談しながら進める。

(委員) 本が好きな方をもっと巻き込める形にしたいと考える。例えば本の修繕等のボランティアはどうか。

(委員) インスタグラムなどのSNSの運用について、イベントごとの投稿は担当者が別になるのか。一部の投稿について、わかりにくい文章になっていることがある。特に、おすすめ電子図書館の投稿は読みづらいと感じた。よりネットが不得意な人に対してやさしく作ってほしい。

電子図書館のページまで進むことが難しい人もいるため、そういった人に対してのフォローも欠かさないようにして欲しい。

S N S 発信のイベントについて、景品の受け渡しは基本的に窓口にて行ったということは、間違いではないと思う。しかし、交通手段がない方もいることから、そういった方たちへのフォローとして郵送等での景品受け渡しをすること検討すべきだと思う。全てオンラインで完結できるという方式を取ることも可能かと考える。

S N S でのイベントをオンライン上で景品まで完結できてしまうのは少しちがうと感じた。実施するとしても図書館のカードを作っている人限定などの要件を作成して現地で確認した方がいい。

(図書館) オンラインで完結できた方がいいというご意見について、賛否両論あるが、今回の S N S 発信イベントは、市民図書館休館中の臨時窓口に来てもらうことを意識したイベントだったため、あえて窓口で景品を受け取るという形を取っていた。

(委員) 鳥飼のトイレは寒い。市民図書館がきれいになったから余計に気になる。長居をするためにも安心できるようにしてほしい。

(事務局) 各施設の老朽化具合と市の予算のことを鑑みると、今回の市民図書館のトイレ改修は本当にいいタイミングで実施できたと感じている。近年予算が厳しいが、担当課としては要求を続けていく予定である。

(委員) こどもスペース利用中の保護者がこどもを置いてトイレに行きたいときに、声をかけていいのかわからない。また、声をかけるとしても職員が近くにいた方が声をかけやすい。そういう点でもボランティアを活用した方が、職員の負担も少なくサービスが向上するのではと考える。

(図書館) 「お困りの方は、お声かけください」という趣旨のポスターを掲示する予定である。

(委員) 館内掲示だけではなく、S N S や広報で定期発信を行ってほしい。また、S N S でボランティア募集や、実施していることの訴求をしていくといいと思う。

細かいところでお手伝いをしてくれる方がいると、とても安心できる。

(委員) 保護者とこどもがはぐれた場面を見つけたが、職員の声掛けがなかった。子どもがどこかへ行かないか心配であった。

(委員) 市民図書館は入館するときに受付と目が合わない導線になっているため、出入りが自由過ぎると思う。

(委員) 「あたらしい本のごあんない」が早速ホームページにあげていた。毎月アップ後に S N S で「アップしました」のポストをしてはどうか。

(委員) 「鳥飼図書センターへ行こう」の企画は良かったが、その後来館される方は増えたのか。1 階 2 階に人が多かったことを見かけたが、その影響があるのか。

(図書館) 継続的に来られる市民の方が多かった印象。景品のトートバッグを持ってこられる方が多くなった。人が多かったことについては影響があったかは不明。

(委員) 本棚の方にも工夫がされていて、文庫本コーナーが出来ていた。

(図書館) 高齢の方からのご意見が多かったので、低い場所にあった文庫本をまとめて文庫本コーナーに持ってきた。まだ、高い場所の本を高齢の方が踏み台などに乗って取るのは危ないとも思えるので、考えていきたい。

(委員) スマートフォンのホームページ上部にメニュー表があるが、電子図書館へのリンクは入っておらず、バナーがホームページの下部にあるため、なかなかたどりつけない。メニューを改修できないか。

(図書館) 改修する。

(2) 令和8年度事業計画(案)

(図書館) — 令和8年度事業計画(案)について説明 —

令和8年度の事業は、全体として4点の項目を重視している。

1. 電子図書館の学校連携とID全員付与：チラシの作成、ニーズの把握、教員への支援を行う。また電子図書館体験会も継続して実施する。

2. すくすくひろばの実施と啓発：フォローアップをどのように行うかが課題である。

3. 地域との連携：人間科学大学の子ども教育学部以外の他の学部とも連携を検討し、地域の団体との連携も実施する。

4. アウトリーチの強化：出張図書館とは異なる形での公民館の活用。子育て支援施設以外への団体貸出サービスやレファレンスサービスの拡大を行う。

(委員) 出張図書館について、別府コミセン付近は図書施設が全くないエリアになる。なんとか配送便は提供できないか。コミセンでの受け渡しが無理であれば、別府地区にあるカフェヒュッゲで、月4回のオープンではあるが受け渡しはできないか。

別府地区でなにか提供できないか検討してもらいたい。

(委員) 鶴野地区の方が公民館などがいないため、読書離れが多いのではないか。

(図書館) 本を市内の隅々まで届けることについて、生涯学習課と連携し検討していく。

(委員) 四か月健診の際に、保護者からどのような本を読んだらいいのかという質問をよくいただく。なにかおすすめ本の紹介や、読み聞かせの講座があったらいいのではないか。

(図書館) 市からの依頼があれば、図書館内で実施できる。

(委員) 小さい子どもを連れての外出に不慣れな方に図書館が優しい場所だと思ってもらえれば、ずっと通っていただける。

(委員) 「あたらしい本のご案内」の絵本特化版を作成することは可能か。

(委 員) プレママサロン等で配布する資料ができれば、ボランティアにも配ってほしい。

子どもの年齢に応じて何を読めばいいかなどが簡単にわかるものがあれば保護者としてもボランティア側としてもすごく勧めやすいと考える。

(3) その他

(事務局) ー電子図書館IDの全児童生徒への付与について説明ー

(委 員) 電子図書館版の読書手帳等はできないのか。ないのであればスタンプカード等の取組はできないか。

(委 員) 学校にはすでに「読書ノート」があるので、運用するのであればどちらかにすべきと思う。せっかく読んでもばらばらに反映されてしまうと、目標の達成が難しくなってしまう。

電子図書館のアカウントについては、児童だけではなく学校用も必要だが、1つでは足りない。教員や司書の先生にも付与してほしい。

トラブル全般に対応する窓口や業務フロー図を生涯学習課や図書館に準備してもらいたい。

(事務局) ID配布は児童生徒と学校単位で考えている。先生1人1人に付与することは検討していなかったが、再度学校の先生方に相談しながら進める。

(委 員) 市民図書館の掲示板のポスターに終了したものが掲示されている。、また、こどものコーナーに飾りがなく寂しく感じる。

展示に合わせたチラシをもっと配布してほしい。

(委 員) 市民図書館のトイレの荷物台(面台)が狭いので、荷物を置く台を作成してほしい。ハンドドライヤーの設置も検討してほしい。